

カナダ・ブリティッシュコロンビア州の ピースリバー地域における農村空間の商品化

兼子 純 (愛媛大学・法文学部)
菊地俊夫 (首都大学東京・大学院都市環境科学研究科)
田林 明 (筑波大学・名誉教授)

要旨

これまでの研究では、カナダ・ブリティッシュコロンビア州の中でも温暖な自然条件を活かした特徴のある農業生産と観光の結びつきが検討され、カナダにあっても大都市の近郊に位置し、恵まれた自然条件を活かした農村空間の変容が明らかにされてきた。しかし、大消費地から遠隔に位置し、自然条件も厳しい地域はブリティッシュコロンビア州の多くの部分を占める。特にブリティッシュコロンビア州の中でも、高緯度地方はその気候条件から耕作期間が限定されるため多様な農業が展開されにくく、それをそのまま観光に活かす活動は起こりにくい。本報告はそうした地域の事例として、ブリティッシュコロンビア州のピースリバー地域 (PRRD) を対象に、その自然条件と人文条件を踏まえた上で、地域の農業と天然資源開発の特徴を明らかにするとともに、農村空間の観光化への取り組みとして、世界ジオパークとチェーンソーカービングの取り組み事例を紹介することで、当地における農村空間の商品化の特徴を明らかにした。

I はじめに

筆者らは、これまでカナダ・ブリティッシュコロンビア州における農村空間の商品化の特性について明らかにしてきた。すでに報告されたローワーメインランド (田林ほか, 2016, 仁平ほか, 2016) では大都市圏に近接した条件を活かしたファーマーズマーケットの展開, オカナガン (矢ヶ崎, 2016) やバンクーバー島 (菊地ほか, 2016; 兼子ほか, 2016) の事例では、カナダの中でも温暖な自然条件を活かした特徴のある農業生産と観光の結びつきが明らかにされた。上記のブリティッシュコロンビア州の事例は、カナダにあっても大都市の近郊に位置し、恵まれた自然条件を活かして農村空間を変容させていた。しかし、大消費地から遠隔に位置し、自然条件も厳しい地域はブリティッシュコロンビア州の多くの部分を占める。特にブリティッシュコロンビア州の中でも、高緯度地方はその気候条件から耕作期間が限定されるため多様な農業が展開されにくく、それをそのまま観光に活かす活動は起こりにくい。ブリティッシュコロンビア州における農業地域を類型化した図1によると、本研究で対象地域とするピースリバー地域は類型VIIに分類され、穀物および飼料用作物の栽培と大規模農業、機械化、借地農業によ

って特徴づけられる。広大な土地を有するものの、穀物栽培に限定される生産性の高いとは言えない農業地域では、どのように農村空間は商品化されるのであろうか。

本報告はそうした地域の事例として、ブリティッシュコロンビア州のピースリバー地域 (Peace River Regional District, 以下PRRD, 図2) を対象に、その農村空間の商品化の特徴を明らかにする。II章では、PRRDの自然条件と人文条件の概要を説明し、III章では地域の農業の特徴と天然資源開発について述べる。

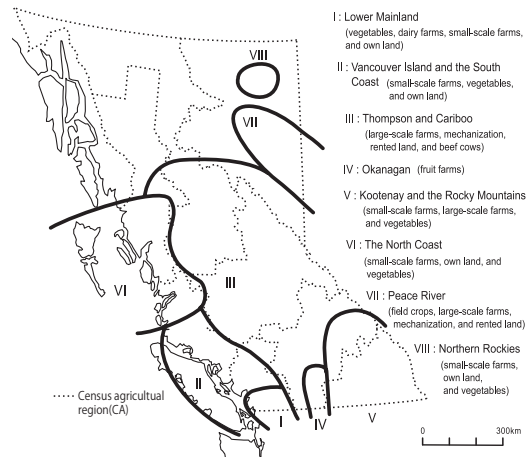


図1 ブリティッシュコロンビア州における農業地域の類型 (2011年) (仁平 (2018) より引用)

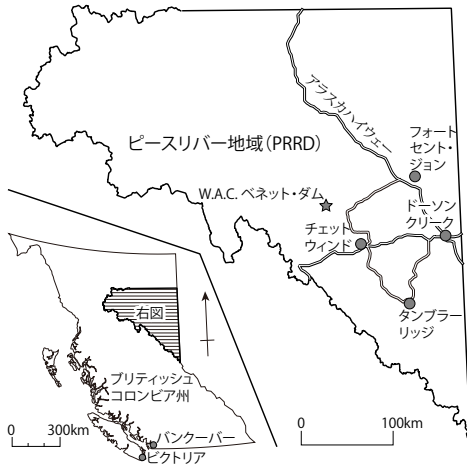


図2 研究対象地域

PRRDにおける農村空間の観光化への取り組みとして、ロッキー山脈への近接性を活かしたウィンターアクティビティ、アラスカハイウェイの0マイルポイントという歴史性を活かした観光（まちづくり）、水資源開発でできたダム教育観光などがあるが、IV章ではタンブラーリッジの世界ジオパークとチェットウィンドのチェーンソーカービングの取り組み事例を紹介する。

現地調査は2017年6月に実施し、BC Ministry of Agricultureの担当者、Peace River Regional Districtのジェネラルマネージャーに対して、地区の農業構造に関する聞き取り調査を行った。タンブラーリッジとチェットウィンドの取り組みに関して、前者は事務局担当者への聞き取り、後者は現地で資料収集を行うとともに、チェーンソーカービングの国際大会とチェーンソーカービングの景観を観察した。

II PRRDの自然条件と人文条件

1. PRRDの自然条件

カナダ南西端の太平洋側に位置するブリティッシュコロンビア州の面積は94万km²であり、カナダではケベック州とオンタリオ州に次いで第3位であるが、日本の約2.5倍の広さである。2016年のセンサスによると人口は464万人であり、これもオンタリオ州とケベック州に次いで第3位である。2001年からの人口増加率は19.8%に達し、カナダではアルバータ州とともに最も急速に発展している地域である。景観的に優れ、自然条件も人文条件も多様である。

太平洋岸から内陸に向かうにつれて、海岸山脈から内陸大地、そしてコロンビア山脈やコルジレラ山系に至る大パノラマが展開している（Wood, 2001）。全体に山がちで、気候条件に恵まれた地域は限られている。農地は分散し、その面積は限られている。全体の3%が農地にすぎず、何らかの農業的に利用可能な土地を含めても30%に過ぎない。

PRRDはそうしたブリティッシュコロンビア州の北東部に位置し、面積は約12万km²でブリティッシュコロンビア州全体の13%を占める。西側にはロッキー山脈が連なり、地域の東部は緩やかな傾斜地となりアルバータ州の大平原へと続く。気候は大陸性気候で、年間平均降水量は350～500mmである。冷涼な気候で、無霜期間は100～110日（5月後半～9月前半）である。地域の名称の由来となったピースリバーは、ロッキー山脈に端を発し、ハドソンズホープにあるW.A.C. ベネットダムを經由して、地域を東流してアルバータ州へと続く。このピースリバー両岸の標高の低い地域が、農業適地となっている。

当地の農業に関係する気候条件について、地区の中心都市であるフォートセント・ジョンとバンクーバーの月別降水量、月平均気温を比較したのが図3である。高緯度であるので、特に冬期間の気温は著しく低い一方で、夏季の気温はバンクーバーと大きな差はない。降水量は冬期間に少なく、夏に増加するが年間を通じて小雨である。このように冬期間の冷え込みは厳しいが、ミクロスケールで見ると、ピースリバー沿いの標高の低い地域は周辺と比べて生育期間の気温が2～3℃高く、無霜期間も3～6週間長いと、PRRDの中では農業適地となっている。

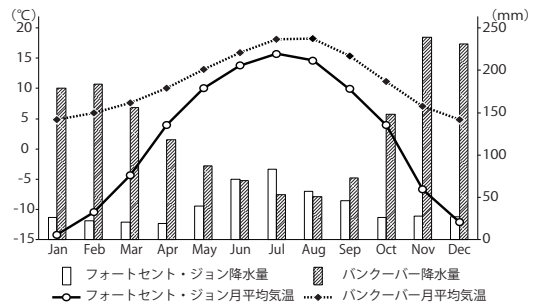


図3 フォートセント・ジョンとバンクーバーにおける月別降水量と月平均気温 (The Weather Networkにより作成)

2. PRRDの人文条件

ピースリバー地域では1万年以上前から人間の居住が認められ、いくつかのFirst Nationsはロッキー山脈から、徐々に動物や季節ごとの植物の成長を追ってアルバータの平野へ移動し、ベリーや通年植物を育てるようになった。今日でもFirst Nationsの人々は、伝統的な狩りや捕獲、漁獲などを続けている。当地における最初のヨーロッパ人入植者は、ノースウェスト・ファーカンパニーのアレキサンダー・マッケンジーで、彼は1792年にアルバータ州のフォート・チップワイヤンから太平洋側へ出る際に、ピースリバーに沿ってロッキー山脈を越えた。この行程によりピースリバー沿いに毛皮貿易が拡大し、ブリティッシュコロンビア州で最初の入植地であるRocky Mountain Fortがピースリバー沿い（現、テイラー付近）に作られた。その後、毛皮貿易を通じて、ピースリバー沿いに交易所が作られ、1805年に作られたフォートセント・ジョンもその一つである。

広大な面積を持つ地域であるが、人口分布は希薄である。ただし、1996年の56,477から2016年の62,786と地区全体の人口は増加している。都市（行政市）はフォートセント・ジョン（20,155人）とドーソンクリーク（12,178人）の二つであり、その他タンブラーリッジ、チェットウィンド、テイラー、ハドソンズホープ、ボス・クーペといった人口2千人前後の小地区や小村から構成される。地域の産業は、農業、観光、製造業に加えて、石油採掘や水力発電といったエネルギー産業、林業である。

PRRDは20世紀初頭まで開発が遅れていた地域で、基本的に東側のアルバータ州からの農業地域拡大の延長線上にあった（Forward, 1987）。アルバータ州では、1916年に中心都市のエドモントンから西のグランドプレーリーへ鉄道が開通していたが、PRRDのドーソンクリークへの開通は1931年であった。しかし、プリンス・ジョージとPRRDの間に鉄道や高速道路の開通させるブリティッシュコロンビア州政府の1950年代の交通政策によって、PRRDはアルバータ州から切り離されるようになった。

後述するように、1950年代からの天然資源の開発により、PRRDは農業や林業に依存した単一的な経済から現在の多様性のある経済へと移行しつつある。特に観光業の発展が重要であることが指摘されてい

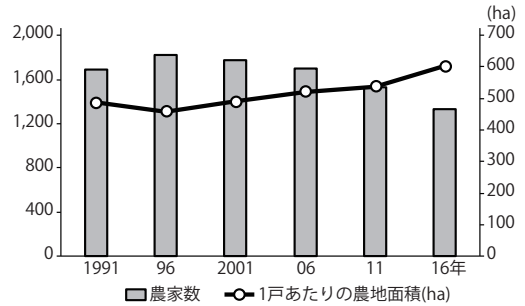


図4 PRRDにおける農家数と1戸あたりの農地面積 (Statistics Canada Census of Agricultureにより作成)

る。ボート・ラフティング、野生生物観察に加えて、スノーモービルやクロスカントリー、スノーシュー、犬ぞりレースなどのウィンターアクティビティといったエコツーリズムが盛んである（McGillivray, 2011）。

III 地域の農業と天然資源

1. PRRDの農業生産の特徴

PRRDにおける農業の歴史について、この地域における最初の農業入植者はフランス系カナダ人のHector Tremblayで、1889年にボス・クーペに入植し4ヘクタールの土地で穀物や飼料を生産したという。1907年から1912年にかけて連邦政府は「ピースリバーブロック」を開発し、新規農業者がこれらの肥沃な土地に入植した（Peace River Regional District, 2014）。

PRRDは選挙区の理事会から推薦される地区委員会によって、地域農業計画を策定している。同計画は、中心保全農地（ALR）内外の農業活動を振興するように地区を導くことを目的としている。ブリティッシュコロンビア州におけるALRは約462万ヘクタールであるが、PRRDにおけるALRはそのうちの27%を占める。

大都市の市場から遠隔に位置し、厳しい自然条件にもかかわらず、PRRDにおいて農業は最も重要な産業である。地域の農業はピースリバー両岸に沿った肥沃な土壌を持つ地域のALRにおいて展開し、これらは人口分布地域とほぼ合致している。2011年の農業センサスによると、PRRDの農地面積は823,498ヘクタールでPRRDのALRの64%である。PRRDの農地面積は1991年から2006年にかけて徐々に増加してきたが、2011年には2006年から約7%減少した。牧

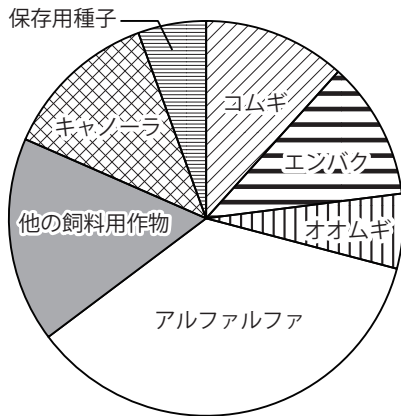


図5 PRRDにおける作物別農地面積の割合 (2011年)
(PRRD Regional agricultural plan draft background report
により作成)

草地在面積として大きいですが、それらはALRの外側に分布している。大量の土地が将来農業生産にさらに利用可能である。

PRRDにおける2016年の農家数は1,335で1990年代以降は漸減傾向にあるが、1農家あたりの耕地面積は増加している(図4)。このPRRDの農家規模は、ブリティッシュコロンビア州の約4倍と大規模である。

主要作物はコムギ、エンバク、オオムギ、アルファルファ、他の飼料用作物、キャノーラ、保存用種子で(図5)、これら7品目でPRRDの穀物生産面積の98%を占める。特にアルファルファの栽培面積が1991年から2011年にかけて急増している。それに対して、他の飼料用作物の栽培面積が減少している。アルファルファは飼料価値の高い多用途の作物であるため、近年ではより選択されるようになってきている。他の5品目について、市場の状況に応じて、その栽培面積は年ごとに増減を繰り返している。

2011年のPRRDにおける野菜生産農家は、わずか16である。生育期間が短く早霜の恐れがあるため、この地域の農家にとって野菜生産は困難であり、ファーマーズマーケットの開催も盛んではない。しかし近年の気候変動による温暖化により、将来的にはこの地域において野菜生産が増加するであろうと予想されている。一方で、当地域は長い晴天日と夕方冷涼になる気候のために、種子生産にとって適地となっている。

畜産について目を向けると、PRRDの肉牛の飼育数はブリティッシュコロンビア州の約23%を占めるが、2006年には14.6万頭まで増加を続けたものの、



写真1 テイラーにおける大規模農家での聞き取り調査
(2017年6月兼子撮影)

2011年には大きく減少し約10万頭になった。他の畜産として、鶏、羊、子羊、馬、バイソン、養蜂がある。養蜂が減少傾向にあるが、ハチミツ生産だけでなく作物の受粉にも重要であるので、この減少は地域の農業にとっても大きな問題である。

総農業収入について、PRRD全体では一貫して増加傾向にあり、1991年の8千万ドル(1カナダドル=82.5円:2018年6月現在)から2011年には1億4千万ドルになった。農業経営者の年齢をみると、35歳未満の若手経営者は年々減少傾向にあり、55歳以上の高齢経営者の割合が増加している。この農業経営者の高齢化はブリティッシュコロンビア州全体と同じ傾向にあり、平均年齢は州が55.7歳、PRRDが54.6歳である。

農地所有についてみると、2011年においてPRRDにおける54%の農地が自己所有であり、その割合に大きな変化はない。農外労働についてみると、PRRDの農家は大規模であるにも関わらず、農外労働の割合が高い。農外労働の割合は、ブリティッシュコロンビア州全体で52%であるのに対して、PRRDでは59%に達する。PRRDの農家の23%が週に40時間以上の農外労働に従事している。PRRDにおいては、石油や天然ガスなど天然資源開発が盛んであり、農外労働において所得の高い仕事を確保できるためである。

ピースリバー沿いのテイラーにおける大規模穀物農家の事例を挙げると、穀物生産者であるA農家は、1983年より就農を開始し、現在の経営耕地面積は4,000エーカーで、そのうちの3,040エーカーが自

作地で残りが借地である。栽培作物は小麦とオート麦、大麦、キャノーラ、豆類、牧草の種である。300～400馬力の2台のハーベスターを所有している。労働力としては、経営主夫婦と息子（26歳）、1人の周年雇用者がおり、収穫時にはさらに3人を臨時に雇用して、全部で7人で作業をする（写真1）。

2. PRRD における天然資源開発

ブリティッシュコロンビア州の中でも開発が新しく、その気候条件から農業開発の遅れていたPRRDであるが、1950年代におけるPRRDでの石油・天然ガス資源の発見により、南部へパイプラインが引かれるとともに、テイラーやフォートセント・ジョンにおいて小規模な石油精製施設が作られるようになって経済的な発展を遂げた。

PRRDの農地の至る所で目にするのは、石油の採掘施設である（写真2）。当地では石油や天然ガスの埋蔵が豊富なため、前述したようにこれらへの従事が農外労働の主要な所得源であるとともに、フォートセント・ジョンやテイラーでは主要産業となっている。

1980年代にタンブラーリッジで2つの炭鉱が開発され地域の経済成長を促したが、これはロッキー山脈を越えて、太平洋側の港湾都市であるプリンスルパートへの鉄道支線開通による影響が大きかった。しかし石炭価格の下落によって、これらの炭鉱は2003年までに閉山された。

水力発電もPRRDの主要産業である。ハドソンズホープのピースリバー溪谷に建設されたW.A.C. ベ

ネットダムは1967年に完成し、堤高183m、堤頂長2,042mの大規模アースダムである。貯水池であるWilliston Lakeは面積1,761km²であり、ブリティッシュコロンビア州最大の貯水池である。ダムの東側の地下にある発電所は、年間発電容量が約130億kWhで、発電を開始した1968年には、世界最大の地下発電所であった。

以上のように、PRRDの農村空間においては、限定された農業生産を補う、むしろそれを超える利益を生み出す天然資源の開発によって、人口規模は少ないながらも経済的発展を遂げてきた。

IV PRRDの農村空間における観光化の事例

PRRDでは自然条件、特に気候条件の制約から多品種の農業生産が難しい一方で、天然資源の開発により経済的利益を確保してきた。近年、産業の多様化を目指す動きが活発化しており、特に自然条件を活かした観光への取り組みがみられる。人口規模は小さいものの、各自治体ではそれぞれの農村空間の特徴を転化させた観光への取り組みを行っている。ロッキー山脈という山岳地域との近接性を活かしたウィンターアクティビティ、ドーソンクリークにおけるアラスカハイウエーの起点0マイルポイントという街道の歴史性（写真3）、チェットウィンドにおけるチェーンソーカービングによるまちづくりなどがある。なかでも2014年にタンブラーリッジが北アメリカで2番目の世界ジオパークに認定された。本章では、この地域の特徴的な観光を中心とする農村空間の商品化に関する活動の実態を紹介する。



写真2 農地における石油採掘 (2017年6月兼子撮影)



写真3 ドーソンクリーク中心部のアラスカハイウエーの起点となる0マイルポイント (2017年6月兼子撮影)

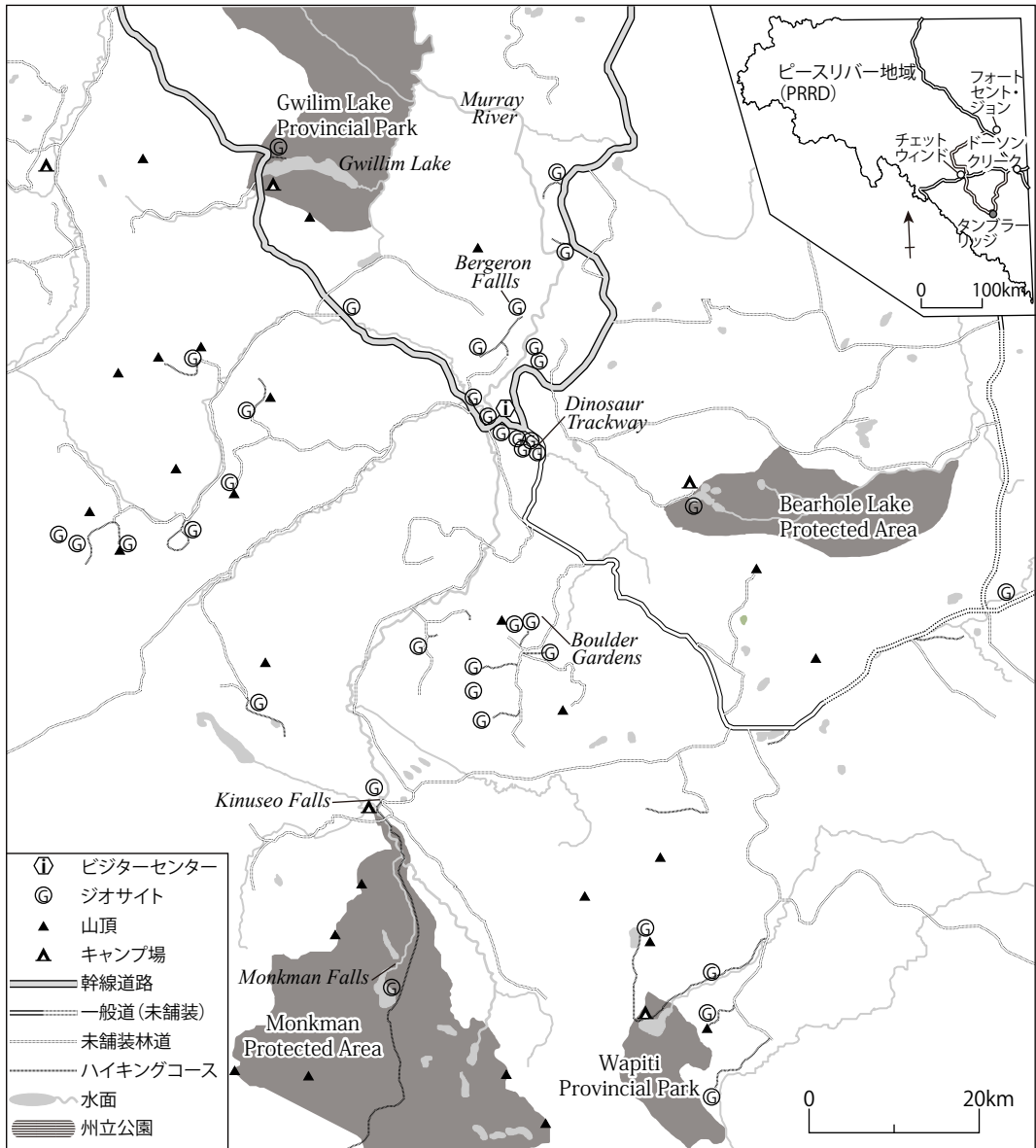


図6 タンブラーリッジにおけるジオサイトの分布 (2017年)
(Tumbler Ridge Global Geopark recreation map により作成)

1. タンブラーリッジでのジオパーク活動

タンブラーリッジはドーソンクリークの南西約110km、チェットウィンドの南南東約90kmに位置する自治体である。面積は1,558km²、2011年人口は2,710である。上記の両地域からの道路が合流する地点に、自治体の中心部がある。

第二次世界大戦以前よりこの地域への探検が行われ、この地がタンブラーリッジと命名された。1950年代と60年代に石油と天然ガス探鉱がこの地域で行われるとともに、15の重要な石炭鉱床が発見された。

1970年代の石油価格の高騰に伴い、1981年に石炭鉱山が開発され、それにあわせて現在の自治体が設立された。炭鉱の開発時には1987年の計画人口を1万と予想しており、1991年には4,794に達した。しかしその後減少して2001年には1,932までに低下した。石炭価格の下落に伴い、2000年代初頭に炭鉱が閉山されたためである。後述するジオパーク活動や低家賃に惹かれて移住する人も増えているが、この地域の人口増減は流動的な状態である。

石炭採掘に依存した経済が急速に衰退する中で、

2000年に当地で恐竜の足跡が、2002年には恐竜の骨が発見され、調査が開始された。これら恐竜の存在や、貴重な地質構造、それらを学ぶツアーや教育プログラムが実施されるに至り、2014年にタンブラーリッジは北米で2番目の世界ジオパークに認定された。

タンブラーリッジのジオパークは、ロッキー山脈の形成をもたらしたプレートテクトニクスを示すものである。山岳地帯および山麓の地質は、先カンブリア紀から白亜紀の範囲に及ぶ。その多くは世界的に重要である白亜紀の恐竜の足跡、特異な特徴を有する白亜系恐竜骨層、および三畳紀魚類および海洋爬虫類が特に重要である。それらの魅力を伝えるDinosaur Discovery Galleryは町の中心部に位置し、その地質学的魅力を伝えている。タンブラーリッジのジオパークは、43か所のジオサイトからなる。それらのジオサイトはそれぞれ単独ではなく、ハイキングコースのネットワークの中で、壮大な滝や恐竜の足跡、登山、堆積岩、洞窟、溪谷など数多くの地形を観察する観光の中で学ぶことができるプランが多数用意されている。

このタンブラーリッジの世界ジオパークの運営のために、運営委員会が組織されている。これら運営委員会の委員には、地元の古生物学、地質学、考古学の専門家も参加している。現在ではこれら運営委員会から発展したTumbler Ridge Global Geopark Societyが組織され、ブリティッシュコロンビア州の非営利団体として登録されている。2017年現在、運営委員会は10名で構成され、そのうち6人は女性である。2017年6月の現地調査の際に、そのうちの一人で事務局長の女性に対して聞き取り調査を実施した。彼女は2007年に、夫と考古学のコンサルティングオフィスを開設し、強固な結びつきを持つアウトドアコミュニティを提供する場所を求めて、2007年にタンブラーリッジに移住してきた。彼女は考古学者であるとともに、ハイキング、ロック、アイスクライミング、クロスカントリースキー、トライアスロン、探検を趣味とする熱心な野外愛好家でもあるという。夫はジオサイトのガイドをしており、夫婦でジオパークの活動に携わっている。

ジオサイトは地域の中心部の南北軸に分布している(図6)。数は少ないが、西部や東部にも化石の魚/海洋爬虫類および恐竜の骨や足跡の貴重なサイト

が存在している。ジオサイトはアクセスの容易さで、A) アクセスは容易、B) 将来的にアクセス可能、C) アクセスが難しい、D) 制限付き、の4つに分類されている。

2~3千人規模の自治体であるにも関わらず、観光客向けのリーフレットやホームページは充実しており、ビジターセンターでの案内も豊富である(写真4)。リーフレットやホームページではレクリエーションマップが提供されているが、その中でジオサイトの説明として、観察できる特徴(例:滝、野生生物、地質学的に特徴的な点)、ジオサイトの起点、距離と時間、行程の容易さ(簡単、普通、難しい)に加えて、注意すべき点(例:熊に遭遇する可能性あり、滑りやすいなど)が記載されている。ホームページでは、代表的なジオサイトの動画も複数提供されており、そのダイナミックな景観を体感することができる。

このようにタンブラーリッジは、炭鉱開発という資源開発から町の歴史が始まったが、その歴史は短く終わった。その後、地域の地質的条件を活かした観光化を進める中で、世界ジオパークに認定されることになり、教育効果を持った観光資源の利用がなされている。



写真4 タンブラーリッジのジオパークにおけるトレイルの説明板(2017年6月兼子撮影)

2. チェットウィンドにおけるチェーンソーカービング

チェットウィンドはドーソンクリークの西、ロッキー山脈に抜ける97号線と、タンブラーリッジからハドソンズホープへ南北に走る29号線との交点にある自治体である。2016年人口は2,503の小村である。チェットウィンドはかつて「Little Prairie」

と呼ばれていたが、1957年にPacific Great Eastern 鉄道が登場したことで、鉄道担当大臣の Ralph Chetwynd に敬意を表して現地名に変更された。1960年代には、W. A. C. ベネットダムの建設現場に労働者と供給品を配達するための鉄道とトラックの積み替え地点としての役割を果たした。ロッキー山脈の東麓に位置し、鉄道の開通もあって林業が発達した地域である。ダムの建設や天然ガスの採掘、南に位置するタンブラーリッジの炭鉱開発などにより、チェットウィンドは1970年代後半から1980年代初めにかけて、さらに成長の勢いを増した。

そのような環境において、アラスカハイウェイ開通50周年を記念して、チェットウィンドにおいてチェーンソーカービング事業が開始された。チェーンソーカービングは、鎖状の刃をエンジンもしくは電気モーター、またはエアーの力で回転させて物を切断するための道具であるチェーンソーを駆使して、木（主に丸太）から生み出された彫刻作品である。1990年12月31日に、大企業と地域社会によってWelcome to Chetwyndのサイン・ディスプレイを構成する熊の彫刻を作成した。こうした動きが継続する中で、2005年にチェットウィンドはブリティッ



写真5 チェットウィンドのチェーンソーカービング大会の様子（2017年6月兼子撮影）

ッシュコロンビア州とアメリカ合衆国から7人の彫刻家を招き、チェットウィンド国際チェーンソーカービングの第1回大会を開催した。翌2006年に参加した彫刻家の数は、北米全土から12人に増加した。そのような活動によって、毎年6月の第2週に開催されるチェットウィンドの国際チェーンソーカービング大会は現在、国際的な注目を集めており、彫刻家はウェールズ、ノースウェールズ、そして日本からも参加する（写真5）。作品自体の精度は年々向上し

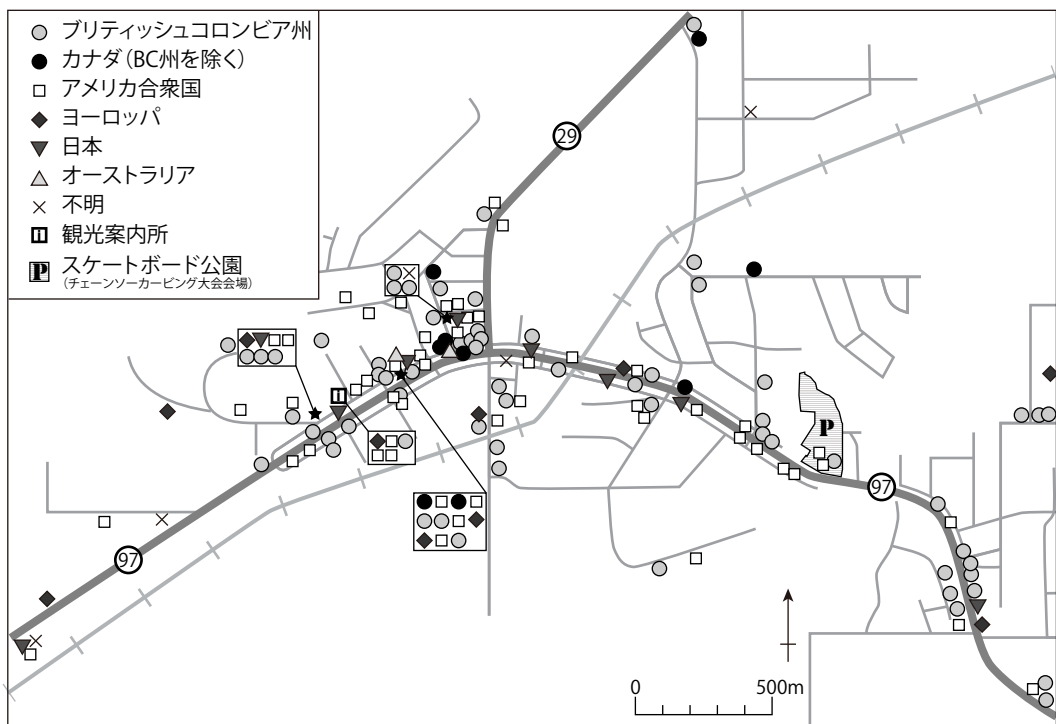


図7 チェットウィンドにおける作品出店者の国別みたチェーンソーカービングの分布（2016年）
 (チェットウィンド地区のホームページ資料より作成)



写真6 チェットウィンド中心部に設置されるチェーンソーカービングの作品 (2017年6月兼子撮影)

ており、町の各所には120以上の作品が展示されている(図7, 写真6)。

チェットウィンド自体はエネルギー資源の開発に伴い、経済的には恵まれた自治体であった。しかし、林業という主要産業をチェーンソーカービングというイベントに活用して成功し、それらを町のモニュメントとして取り入れることにより、林業の中心地であった空間の商品化に成功している事例と言える。

V PRRDにおける農村空間の商品化

PRRDでは第二次世界大戦後の穀物栽培や林業、資源開発といった数少ない経済基盤から、近年では多様性をもつ産業構造へと転換してきている。その気候条件から、ブリティッシュコロンビア州の南部のように農業環境には恵まれておらず、高収益な農産物生産や加工品販売などが期待できる野菜や果物栽培には不適な地域である。PRRD自体の人口規模も小さく穀物市場は変動が激しいため、農業生産だけでは地域の経済基盤が成り立たないが、この地域では水力、石油、天然ガス、石炭といった天然資源が豊富であったことから、早くから農業のみに依存しない産業構造が確立されてきた。天然資源の開発は、広大な農業地域の景観にも影響を与え、W.A.C. ベネット・ダムでは水力発電所の開発経緯や電力供給の様子を見学できる施設も用意されている。山間地域が中心となる石炭とは異なり、石油や天然ガスの採掘は穀物などの農地の中に突然と現れる当地の特異な農業景観を生み出している。石油や天然資源の開発のため農地を提供したとしても、土地所有者に

とっては大きな利益にならず、むしろ農地が不規則に分断されることによりデメリットもあるという。しかし当地の農業者にとって、都市のプラントで働くことによる農外収入は少なくない。

こうした天然資源の開発による農村空間の商品化という一面がある一方で、地域の産業の多様化を目指すために、観光業の発展が近年PRRDにおいては重要である。その中で、炭鉱開発の歴史から生まれた町が、その衰退の中で地質的基盤を活かし世界ジオパークとして活動しているタンブラーリッジの取り組みは小規模自治体における農村空間の商品化として注目されるべき事例であろう。ジオパークの認定やその取り組みは、行政の活動への依存度が高くなりがちでもあるが、このわずか3千人弱の自治体による取り組みは、ボランティアを中心とする活動の有用性を示すとともに、ジオパーク自体の魅力を観光客に伝えている。チェットウィンドのチェーンソーカービングの事例も、それ自体が大きな観光収入を生み出すわけではないが、林業で発展してきた地域の歴史的文脈から営まれるものであり、人口希薄地域における農村空間の側面を示すものであろう。ブリティッシュコロンビア州において都市部に人口集中が進む中で、PRRDのような原野の残る地での農村空間の商品化は、州の中心地域とは大きく異なる様相を見せるが、それらがむしろ当地域の重要な観光要素となっている。

[付記]

現地調査に際しては、BC Ministry of Agriculture, Regional Agrologist for the Peace RiverのLori Vickers氏、Peace River Regional DistrictのBruce Simard氏、Claire Negrin氏、Tumbler Ridge Global GeoparkのSarah Walters氏をはじめ、多くの農家の皆様にお世話になった。心から感謝申し上げます。本稿の骨子は、2018年日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学)において発表した。本報告の現地調査において、平成26-29年度科学研究費補助金基盤研究(B)「カナダにおける農村空間の商品化による都市-農村共生システム構築の実証的研究」(研究代表者:田林明, 課題番号:26300032)による研究費の一部を使用した。

文 献

- 兼子 純・菊地俊夫・田林 明・仁平尊明・
トム ワルデチュック (2016) :バンクーバー島カウチンバレー地区における農村観光の構造. 地理空間, 9, 205-220.
- 菊地俊夫・兼子 純・田林 明・仁平尊明・
トム ワルデチュック (2016) :カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー島カウチンバレーにおけるワイナリーの発展にみる農村空間の商品化. 地理空間, 9, 115-129.
- 田林 明・仁平尊明・菊地俊夫・兼子 純・
トム ワルデチュック (2016) :カナダ・ブリティッシュコロンビア州のローワーメインランド地域におけるサークル・ファーム・ツアーの意義. 地理空間, 9, 63-86.
- 仁平尊明 (2018) :カナダ・ブリティッシュコロンビア州の農業地域区分. 田林 明編『カナダにおける農村空間の商品化による都市-農村共生システム構築の実証的研究』平成 20 ~ 29 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (B) (海外学術調査)) 研究成果報告書, 14-33.
- 仁平尊明・田林 明・菊地俊夫・兼子 純・
トム ワルデチュック (2016) :カナダ・ブリティッシュコロンビア州のローワーメインランド地域におけるファーム・ダイレクト・マーケティングの特徴. 地理空間, 9, 87-113.
- 矢ヶ崎典隆 (2016) :カナダ・ブリティッシュコロンビア州オカナガンバレーのケローナ地域におけるワインツーリズム. 地理空間, 9, 131-145.
- Forward N. C. (1987) : *British Columbia: Its Resources and People*. Western geographical series 22, University of Victoria.
- McGillivray, B. (2011) : *Geography of British Columbia: People and Landscapes in Transition*. UBC Press, Vancouver.
- Peace River Regional District (2014) : Regional Agricultural Plan. Draft Background Report. <https://prrd.bc.ca/wp-content/uploads/Background-Report-Final-November-2014.pdf> (最終閲覧日 : 2018 年 3 月 9 日)
- Wood, C. J. B. ed. (2001) : *British Columbia, the Pacific Province: Geographical Essays*. Western Geographical Press, Victoria.

Commodification of rural space in Peace River Regional District,
British Columbia, Canada

Jun KANEKO (Ehime Univ.), Toshio KIKUCHI (Tokyo Metropolitan Univ.),
Akira TABAYASHI (Univ. of Tsukuba Prof. Emeritus)